

令和 5 年度 特別の教育課程の実施状況等について

文部科学省「教育課程特例校」制度に基づく教育の実施状況

令和 6 年 7 月

学校法人細田学園は、中学校、高等学校とも令和 4 年 3 月 8 日付で文部科学省により「教育課程特例校」に指定され、令和 4 年度より計画に基づく教育を実施しています。

新たな教育プログラムを設置した趣旨

本校では 2013 年より、現実の社会課題を抽出して分析し、ビジネスの手法を用いて解決法を提案する独自の探究プログラム「リーダー教育」や「未来研究 (Think My Future)」を実施してきました。これらのプログラムで生徒が着目する社会課題は、科学・社会・生活基盤を扱う科目で言及される内容であることが多く、また、生徒が自ら発見した課題に取り組みながら、その過程で課題に関連する教科知識を学ぶことで、より本質的で実践的な知識を得ることがわかってきました。

そこで、これら科学・社会・生活基盤を扱う科目を取りまとめ、探究的な新設教科として扱うことで、生徒に主体的に学ぶ機会と、本質的で実践的な知識を得る機会を多く提供できると考えました。

そして、独自の探究プログラムを新しく教科化して取り組むことは、本校の基本方針である「絶対的な学力はもちろんのこと、社会との様々ななかかわりの中で主体的に考え、行動できる生徒を育成する」決意の表明でもあります。

教育プログラムの概要

科学・社会・生活基盤を扱う科目を取りまとめて、探究的な新設教科「未来科」を新設し、独自の探究プログラム「FDC : Future Design and Creation」を行っています。独自の探究プログラム FDC は、

- ①社会課題を自ら抽出する、
 - ②ビジネス手法を用いながら社会課題を調査・分析する、
 - ③分析した課題について解決法を提案する、
 - ④学内外のファシリテータ監修のもとで課題解決に向けた提案を実践する、
 - ⑤実践の効果を評価し国内外に周知する、
- の一連の活動から成り、学年に応じた形式で継続的に実施しています。

教育プログラムの実施時数

①高等学校：設置・削減した教科及び単位数

(単位数)	設置した教科	削減した教科				
	未来	公民	理科	家庭	情報	総合的な探究の時間
高校1年	3	1	1			1
高校2年	3			1	1	1

②中学校：新設・削減した教科及び授業時数

(授業時数)	設置した教科	削減した教科		
	未来	社会	理科	特別活動
中学2年	105	35	35	35
中学3年	105	35	35	35

教育プログラムを受けた生徒数

令和5年度（令和5年5月1日時点）

①高等学校

教科名	単位数	一貫部		高等部	
		高校1年	高校2年	高校1年	高校2年
未来探究Ⅰ	3	39	—	—	—
未来探究Ⅱ	3	—	22	—	—
未来創造Ⅰ	3	—	—	251	—
未来創造Ⅱ	3	—	—	—	310

②中学校

教科名	授業時数	中学2年	中学3年
未来	105	59	30

年間活動スケジュール（令和5年度）

- 4月18日 全体キックオフ
- 4月～5月 全体講義（課題分析技法、調査法、発表法等）（削減教科の内容を含む）
ゼミ分けのための活動希望調査
- 6月 ゼミ別の活動開始
- 7月 中間発表1
- 10月 中間発表2
- 11月 全体講義（SDGs、格差問題、エネルギー問題、情報リテラシー等）
選考会＜予選＞
- 12月 選考会＜最終＞
- 2月22日 校内発表会「FDC Award 2024」保護者・一般公開あり

活動分野と参加した生徒数及びテーマ（抜粋）

生徒の興味分野ごとにわかれ、ゼミ形式で指導教員がつきます。生徒は 1～7 名のチームを編成し、チームごとに年次計画に基づいて活動を行いました

①高等学校

分野	活動人数（人）		テーマ（一部のみ抜粋）
	高 1	高 2	
社会 ・ 地域	78	63	大人もつけやすい防犯ブザーのデザイン・開発 動物の殺処分問題の解決 介護施設等におけるモルックによる交流 志木市文化財保護を目的としたツアー 手話普及のためのカードゲーム開発 近隣スーパーと連携した衣服回収 BOX の設置
教育 ・ スポーツ	73	60	5人制野球の普及 スポーツによるケガの研究と予防 プラスチックごみから作る玩具と児童との交流 古文単語学習アプリ開発 埼玉大学心理学部学生との交流イベント開催 Many Soccer による運動不足解消
SDG s ・ 環境	68	72	教科書・参考書のリユース 廃油から作る肥料 クリーニング店と連携した衣類のリユース活動 廃棄米削減のためのライスバーガー販売 食品ロス低減レシピ開発 地域河川の汚染について
芸術 ・ 文学	49	45	絵本の製作と幼稚園での読み聞かせ 子どもの野菜嫌い克服のためのアニメーション制作 介護施設におけるハンドベル音楽会開催 児童向け英字書籍をつくる AI による作詞と作曲 小説の執筆とコンクール出展
工学 ・ ものづくり	64	50	暮らしやすい家の 3D 建築図面 ディズニーランドの効率的ルート（巡回セールスマン問題） 機械学習によるエレベーターシステムの構築 フラワーロス問題改善のためのバスボムづくり パズルゲーム開発 曇りにくいガラスの開発

②中学校

分野	活動人数（人）		テーマ（一部のみ抜粋）
	中2	中3	
医療	2	3	離島で十分な医療を受けられるように
教育	9	4	不登校の子どもへの支援をする
芸術	7	0	スポーツの交流戦を企画する
工学	1	4	CO2削減に配慮した自動車制作
社会科学	15	2	耳の不自由な人が暮らしやすい社会
歴史	5	4	外国人向け江戸城ツアー
人文科学	1	2	戦争や原発について認知を広める
農学	10	3	食品ロスを減らすパン作り
理学	1	2	発電方法の調査・解決
動物	8	6	動物の暮らしやすい環境を作る

主な成果

① 校内の活動

A) 校内発表会（中高）「FDC Award 2024」令和6年2月22日

No.	チーム	「発表題目」と概要	受賞
発表1	高2/Bゼミ	「5MANS（学習アプリ）」 中高生向けの学習管理アプリの開発。ToDoリストや、学習の記録の自動作成、チャット機能などを設け、自学自習の効率化をサポートする。加えて学内の需要に応じて各行事の得点集計システムなども構築。	
発表2	高2/Hゼミ	「手話カードゲーム」 健常者の手話リテラシーを向上したい。実際に聴覚障がい者施設や全国の活動団体と連携を取りながら、カードの作成からルールのコ案を行った。	特別賞
発表3	高2/Bゼミ	「ライスバーガー」 廃棄されてしまう米の量を減らすことを目的とした活動。新座市にあるハンバーガーショップと連携して商品を開発。「こども食堂」として児童には無償で提供。	優秀賞
発表4	中2	「廃棄野菜を減らす亀メロンパン」 廃棄されてしまう野菜、あるいは子どもが食べず嫌いしがちな食材をパンに練りこんで、販売した。地域のベーカリーと提携し動物の形にデザイン。	最優秀賞

発表5	中3	「江戸城ツアー」 日本古来の文化、美意識を海外に発信したい。前年度の自由研究内容を活かし、都内の日本語学校に通う外国人向けのツアーを開催。	優秀賞
発表6	高1/Dゼミ	「SNO プロジェクト（洋服リサイクル）」 地域のクリーニング店と提携したリサイクルシステムの確立が目的。洋服を“to Same, to Needy, to Other”の合言葉のもと回収、再利用を実施。	
発表7	高1/Eゼミ	「ユニバーサルスポーツ（モルック）普及」 世代を超えた地域のつながりを実現するための活動。ユニバーサルスポーツであるモルックを媒介に、お年寄りから子供まで参加できるイベントを開催。	

B) 校内発表会（高校）「FDC Shorts 2024」（動画コンテスト）令和6年2月19日

部門	チーム	「発表題目」と概要	受賞
アイデア部門	高1/Hゼミ	「フィルムカメラで思い出をのこそう」 アナログカメラの文化保存	優秀賞
	中2/Hゼミ	「アニメで人を楽しませる」 アニメーション制作	優秀賞
	高2/Bゼミ	「野菜嫌いをなおし隊」 アニメーション制作	優秀賞
	高1/Cゼミ	「埼玉の歩き方」 東武東上線沿いの町の魅力を発信	優秀賞
	高2/Bゼミ	「古文単語学習アプリ」 クイズ形式で効率良く学習できる古文単語アプリ	最優秀賞
探究部門	高1/Bゼミ	「広めよう 廃油の可能性」 廃油から作れる肥料やロウソクの紹介	優秀賞
	高1/Cゼミ	「防犯ブザー」 高校生以上の層を対象とした防犯ブザーのデザイン	優秀賞
	高1/Dゼミ	「SNO プロジェクト～洋服を大切に～」 衣服のリユースシステムを提案、実行	優秀賞
	中3/Hゼミ	「江戸城ツアー」 日本文化を外国人向けに発信	優秀賞

C) 校内発表会（中学校）「卒業発表会」令和6年3月16日

【写真】「FDC Award 2024」の様子



② 校外の主な活動・受賞（令和 5 年度分）

- ・全国高校生マイプロジェクトアワード 2023 地域サミット参加
「野菜嫌いをなおし隊」
高等学校 2 年／小山千稀 荒永由愛 濱野心遥 秋山舞桜 寺島里奈
- ・12 月 9 日、2 月 24 日 志木市ぺあもーるマーケットにて「亀メロンパン」発売
中高一貫部 2 年／越智月海 塚原羽音 長谷川莉乃 山口由貴奈
- ・1 月 10 日 入間市 THE PORK SHOP にて「ライスバーガー」発売
高等学校 2 年／秋葉はな 大塚恒太郎 浦野悠樹 重心美
- ・

特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

- (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況
「計画通り実施できている」
- (2) 実施状況に関する特記事項
特になし
- (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況
「実施している」
ホームページでの報告及び校内発表会「FDC Award」の保護者公開

実施の効果および課題

- 上記の活動を一年間通じて実施したことで、以下のような点が明らかになりました。
- ① 生徒が自ら発見した課題に取り組みながら、その過程で課題に関連する教科知識を学ぶことは、意欲的な先取りの学習につながる
 - ② 自発的に課題解決に取り組む際、他者から課題を提示された場合よりも意欲的に取り組み、また企業/大学など学外の組織と連携することに対して抵抗が少なくなる傾向にある
 - ③ 生徒が自ら行動した結果として成果の有無を「自分ごと」と捉える傾向が強く、うまくいった経験も、うまくいかなかった経験も次の活動意欲の向上につながる
 - ④ 自身の学習を目標にした場合よりも、社会貢献や地域活性化など大きな目標設定をした際に意欲的な学習が行われやすいということ

令和4年度（実施初年度）と比較して向上が見られる点

- ① 実施初年度に本課程を履修した生徒の進路選択や受験内容に寄与している点
本活動において極めて優秀な成績を残した生徒、特に外部コンテストなどで表彰の対象となった生徒の中には、その実績を大学に認められたことにより主に総合型選抜入試で大学合格を果たしたものもいる。

- ② 学校外の団体との連携や社会貢献活動の実施数が増加した点
実施初年度においては、生徒が調べ学習に終始し実際の活動に至らなかったケースが多く見られたが、本年度においてはPDCAサイクルのなかで、学外の団体との連携や活動につなげるチームが増加した。
連携した外部団体は、地域の商店、近隣市役所、福祉協議会、企業、小中学校、幼稚園、農家、大学、NPO法人などさまざまある。